

経営理念		保育目標	【あったか笑顔で、すくすくやすっ子】					
		経営目標	【子ども一人一人を大切にし、保護者に信頼され、地域に愛される保育所】					
		＜子ども像＞	○友達と元気に遊べる子ども ○自分の思いを持ち、素直に出せる子ども ○やさしく思いやりのある子ども ○自分のことを自分でしようとする子ども					
		＜保育所像＞	○一人一人の子どもが大切にされ、楽しく安心して生活できる保育所 ○基本的な生活習慣を身につけ健康な子どもが育つ保育所 ○保護者や地域から信頼される保育所 ○地域の子育てを支援する保育所					
＜保育士像＞		○子どもに寄り添い、子どもの最善の利益を考える保育士 ○意欲を育む環境を考える保育士 ○保護者と協力し、子どものより良い育ちを考える保育士 ○仲間と創造し協働する保育士 ○豊かな人間性と専門性の向上に努める保育士						
中期経営目標		短 期 経 営 目 標（評価項目）	自 己 評 価		保育所関係者評価員		改善策等	
			達 成 状 況	評価	考 察	評 価		
適正な保育所運営	○ 職務分担が適切に機能し、子どもたちのために職員がお互いに協働する保育所を構築する。	① 職員が報告・連絡・相談に努め、協力体制のなか保育にあたる。	月案検討会や毎日の終礼、他クラス職員同士声をかけ合う等、子どもの様子を共有することで対応を共に考え、実践につなげることができた。しかし、パート職員との情報共有が十分でなかったことが課題である。	B	時間確保の難しいなか、多面的に捉える努力が感じられる。パート職員との情報共有の課題を、今後改善に努めてほしい。	B	クラス担任からの引継ぎの徹底やパート部会の活用、個別伝達を行い、様々な情報の共有を行い、協働に努める。	
		② 保健計画や感染症対策に則り、安全管理・衛生管理を適正に行う。	毎日の玩具の消毒、掃除や換気、子どもの体調の変化をこまめにチェックするなど意識して取り組んだ。保護者には便りや掲示等で情報を伝えたり手指消毒容器を扱いやすいものに替えたりすることで、習慣化へつなげることができた。	B	感染予防対策の業務負担増加のなか、様々な工夫ができている。手洗いの場面を写真掲載した便りは、子どもの成長を伝えると共に感染予防の啓発になっている。	B	引き続き感染予防対策を徹底し、必要に応じ個別対応も含めた対応を行う。	
充実した保育内容	○ 保育指針に沿って乳幼児の発達に即した保育を展開し望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う。	① 保育所保育指針を理解し、園の経営計画や保育目標等について共通認識のもとに保育を実践する。	保育環境を定期的に写真に収め、遊びや内容を書き込み検証、環境の再構成を行うことで子どもが興味をもって遊ぶ姿へつながった。3歳児の半数以上の子どもが自ら関わり楽しんだり考えたりして遊ぶようになった。公開保育の研究を通して全職員で環境を考える機会が増えたが、3歳児までの低年齢児保育の質の向上の取組が引き続き必要である。	B	研究テーマに沿った取組の工夫がされ、子どもたちの姿への成果につながっていると思われる。職員の経験値の違いを考慮しながら、今後に期待する。	A	今後も公開保育に取り組み、全職員の質の向上となるよう研究内容を工夫し、実践につなげる。	
		② 一人一人の乳幼児の発達や特性を理解し、心に寄り添った保育を実践する。	日々の保育の振り返りを記録することで、興味関心に応じた環境の再構成や手作り玩具を用意することができたり、発達に応じて運動用具を組み合わせた環境を整えることができた保育者が70%以上。学年での取組で差があり、園全体での話し合いなど十分にできなかった。	B	行事で低年齢児への配慮がされ、一人一人の特性に応じた取組ができている。環境の取組は各年齢で工夫されているため、園全体での話し合いを深めてほしい。	B	園全体で遊具の活用や園庭環境を考え実践するため、話し合いの場がもてるように担当や時間確保の工夫をする。	
		③ 生活や遊びを通して、子どもが興味関心をもって食に関わる体験ができる保育を展開する。	2,3歳児は自分達で野菜の種蒔きや苗植え体験をし、水やりや草引きを進んで行い目を輝かせていた。0,1歳児は身近に栽培物があることで見たり触れたりする姿や収穫した野菜が給食に入っていることを伝えたと嬉しそうな姿や苦手なものも食べようとする姿があった。計画した時期に植付ができなかったり、食べ物に関連したわかりやすい絵本の活用ができなかった。	B	自分たちが植えた栽培物の成長に気づき収穫の喜びや食への関心につながる大事な体験ができている。	A	職員の栽培・食育に関する知識や技能を高め、低年齢児に応じた計画的な体験活動や関連したわかりやすい絵本の活用など充実させていく。	
信頼される保育所	○ 保護者や地域に開かれた保育所づくりに努め、信頼される保育所を確立する。	① 保護者の実情や要望を把握し、子どもの育ちを共有しながら、子育て支援・保護者支援を行う。	家庭支援・保護者支援は職員同士が連携をとり情報共有して進めることができた。機会を捉えて保護者の悩みや育児の大変さ、喜びを共有することに努め、保護者が子どもの成長を伝えてくれるようになった。送迎時ゆっくり話ができないため、連絡帳に日々の悩みを書いてくる保護者は半数以上だが、随時面談を行うことができなかった。	B	必要に応じて面談を行い関係機関につながったり、保護者アンケートからは日々の先生方の丁寧な関わりが安心感につながっていると推察される。	A	子育て支援では役割分担を明確にして連携をとり、タイミングを見計らって随時面談や家庭訪問を行うなど工夫しながら取り組んでいく。	
		② 防災活動・安全対策について、保護者や地域、幼小中との連携を図る。	合同避難訓練は隣接する中学校と連携しながら事前事後の話し合いで共有し実施できた。園内でも様々な想定訓練を同様に実施し、防災活動・安全対策について職員の意識が高まり話し合いが充実してきた。保護者の関心度も高いが防災参観日で保護者の参加はコロナ禍で35%に留まった。地域の方に指導してもらいワークショップを行うことができた。	B	防災意識を高める取組は十分できていると思われる。今後はさらに地域と共に取り組むことが期待される。	B	冬は防寒、夏は熱中症対策など季節によって工夫した取組を進める。また、地域との連携を進め防災・安全対策を引き続き実施していく。	